

鴨川の魅力発信について ～鴨川・高野川に架かる橋梁下の利用について～

第13回鴨川府民会議において、上記件を議題としたところ、橋の下には「何も無い方がよい。」という意見も出され、他の事例を収集し、それを見て議論を深めてはということとなっておりますが、国内外の橋の下の使用事例は以下のようなものであります。

■ 国内の事例

①護岸にタイルを設置しているもの

一級河川 信濃川 昭和大橋 (新潟県新潟市)	近隣小学校の児童がデザインしたタイル製絵画を設置し、さらにメロディーチャイムの像も同箇所に設置している。
------------------------------	--

②史跡として像を設置しているもの

一級河川 ^{とやがわ} 都谷川 ^{とよがはし} 十夜ヶ橋 (愛媛県大洲市)	弘法大師ゆかりの橋梁でそれを再現した像を設置している。
---	-----------------------------

③橋台に絵を描いているもの

一級河川 ^{つるうだがわ} 鶴生田川 ^{おびきばし} 尾曳橋 (群馬県館林市)	河川公園内の橋梁であり、落書き防止の一環として絵画を描く。
一級河川 隅田川 千住大橋 (東京都足立区他)	松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を始めたところとして、壁面に文章と絵や、安藤広重や葛飾北斎が描いた千住大橋の浮世絵を描いている。

④照明を設置しているもの

一級河川 ^{やすはるがわ} 安春川 ^{しんごにはつちようめばし} 新琴似8丁目橋 (北海道札幌市)	太陽光発電により橋梁下の散策路用の照明を設置している。 自然光の採光口を設置し昼も明るくしている。
---	--

■ 海外の事例

○観光客を呼び込む施設整備をしているもの

^{チヨソグチヨソ} 清溪川 (韓国 ソウル市)	橋梁下に照明付きで絵画や写真のギャラリーを設置。
-------------------------------------	--------------------------

＜参考＞

第12回 鴨川府民会議までの橋梁に係る意見

- 河川の橋は占用物件であり、道路管理者も橋の下を管理する義務がある。
- 橋にはライフラインが添架されているので、ホームレスによる火災が恐い。
- 女性は、橋の下に住んでいるホームレスが怖くて近寄れず、散歩をしても手前でUターンしている。
- 橋梁名称が河川利用者の視点でわかるように桁等書けばどうか。
- 上中流域に1箇所ずつ、古い写真などを展示するような鴨川に係る資料館を設置したらどうか。
- ホームレス対策などを考慮して、橋の下の整備を考えてはどうか。
- 夏の暑さ対策の観点から日陰として橋梁下整備を考えてはどうか。
- ホームレス退去後、フェンスで囲っているが、住宅でいうと「縁の下」ではなく、「床の間」のように扱った整備をしたらどうか。
- 三条大橋にある天正年間に秀吉が文字を書いている擬宝珠や、池田屋事変の刀傷がある擬宝珠、五条大橋に添架されている本願寺水道など鴨川の魅力を発信すればどうか。



第13回 鴨川府民会議の議題

- ・以下の提案をメンバー・事務局から提案
「暗い、汚いとのイメージや柵等により未利用となっている橋梁下を開放的な空間や府民に利用できる有効な空間としていく。」
「利用者の利便性向上のための案内や鴨川の魅力発信の場として利用する。」



第13回 鴨川府民会議で出された意見

- 海外ではポスター掲示などを行っているところもある。
- 橋の下には原則何も無い方がすっきりして良い。
- 橋の下は暗い。明るくできないか。
- 他の事例を踏まえ議論をするのがよいのではないか。



第14回 鴨川府民会議の議題

- ・国内外の事例を事務局で調べ会議に提示